



仲光



特別
子12
3643
15(1)



仲光

^{シテ}是の多田の満仲は仕へた。着戻れ仲
 光と申おあての。叔も御子美女御
 前。あゝらり地記守山もふ登せお
 のまじいまに。学文を以て心よりれ
 流る。明言武勇紙は借まの由
 等。古ま。以の外表は憤りにく



物^ゴ濫^{セツ}めく社^カへ先^ニく御^カ佩^カ刀^セと後
 たり^ハく^漢仲^仲可^可給^給英^英女^女と討^討て^美あり^美
 さ^さお^おと^とこの^のあ^あく^くの^の明^明神^神氏^氏の^の社^社も
 御^御知^知見^見あ^あま^ま仲^仲光^光ご^ごも^もに^には^は終^終お
 の^のま^まし^しと^とを^を 何^何ぞ^ぞも^も御^御定^定を^をな
 せ^せと^と申^申向^向鋪^鋪張^張ま^まら^らく^くは^は月^月へ
 入^入り^りく^く言^言洛^洛道^道以^以の^の外^外の^の御^御怒^怒り

せ^せて^ては^は何^何も^も有^有無^無と^とは^は存^存し^して
 加^加禱^禱追^追ま^まの^の存^存を^をは^はり^りや^やく^く何^何と
 任^任じ^じた^た一^一ま^まの^の者^者一^一申^申さ^さり^りや^やと^と存^存く
 づ^づに^に申^申上^上は^は只^只今^今の^の奈^奈り^りれ^れは^は怒^怒ふ
 て^て果^果も^も迷^迷惑^惑は^はり^りて^ては^は美^美女^女あ^ある^るふ^ふ仲^仲
 光^光只^只今^今自^自然^然逆^逆は^はり^りは^はり^りの^の仲^仲光^光が
 制^制ま^まる^るふ^ふら^らわ^わり^り美^美女^女と^と討^討て^美あり^美

ともや怒り^{イカ} 後子^{ウシ} 我物^{ワレモノ} 辨^{ワカ} 小^コ 笑^エ
 あり^{アリ} ともや^{トモヤ} 自^{ミヅカラ} 首^{クビ} 我^{ワレ} 父^チ 我^{ワレ} の^ノ 体^{タテ} 自^ミ
 小^コ 掛^{カケ} 入^イ 定^{シテ} 々^々 健^{ケン} 氣^キ 城^{シロ} 子^コ 我^{ワレ} 作^{サス}
 物^{モノ} 式^{シキ} 所^所 治^シ 行^行 と 後^後 乃^乃 一^一 事^事 以^以 落^落
 一^一 申^申 出^出 ず^ず ず^ず 申^申 せ^せ ぬ^ぬ 也^也 行^行 と 申^申 ぞ
 又^又 此^此 使^使 の^ノ 事^事 未^未 だ^だ と 申^申 う^う 也^也
 矣^矣 止^止 也^也 相^相 行^行 と 仕^仕 り^り ぬ^ぬ づ^づ 也^也 定^定 也^也
 何^何 事^事 も 報^報 ひ^ひ 有^有 け^け る^る 字^字 世^世 一^一 邦^邦 傳^傳 へ^へ 也^也
 阿^阿 婆^婆 せ^せ 太^太 子^子 の^ノ 如^如 し^し じ^じ じ^じ 也^也 ね^ね 紙^紙 が^が い
 也^也 是^是 皆^皆 宿^宿 縁^縁 々^々 の^ノ 也^也 也^也
 善^善 女^女 也^也 去^去 ぬ^ぬ 也^也 世^世 現^現 世^世 に^に 施^施 へ^へ 也^也
 報^報 へ^へ 人^人 の^ノ 答^答 あり^{あり} 只^只 自^自 己^己 也^也
 事^事 々^々 亦^亦 思^思 ぬ^ぬ 也^也 恨^恨 意^意 有^有 る^る 字^字 世^世 一^一
 中^中 と 思^思 ぬ^ぬ 也^也 然^然 ぐ^ぐ 也^也 小^小 字^字 手^手 を^を

阿^阿 婆^婆 せ^せ 太^太 子^子 の^ノ 如^如 し^し じ^じ じ^じ 也^也 ね^ね 紙^紙 が^が い
 也^也 是^是 皆^皆 宿^宿 縁^縁 々^々 の^ノ 也^也 也^也
 善^善 女^女 也^也 去^去 ぬ^ぬ 也^也 世^世 現^現 世^世 に^に 施^施 へ^へ 也^也
 報^報 へ^へ 人^人 の^ノ 答^答 あり^{あり} 只^只 自^自 己^己 也^也
 事^事 々^々 亦^亦 思^思 ぬ^ぬ 也^也 恨^恨 意^意 有^有 る^る 字^字 世^世 一^一
 中^中 と 思^思 ぬ^ぬ 也^也 然^然 ぐ^ぐ 也^也 小^小 字^字 手^手 を^を

諸君の御時移るりや首とま
 や仲光と言れ紫も涙とすむこ
 そぞろと老れ一髪染ぬ年の
 程あくるり。御命に替りぬんを
 惜るる命もことよりて
 心ふれをぬらさる候。いふ父上
 只これに紫とそ幸壽が身に
 只これに紫とそ幸壽が身に

早自ぐ首取。英女は前と
 何と申ぞ。英女は前のは命に
 娘も我と申り。おは仲光が子に
 ては。おは首と。衣子に
 夜まごこれと。おは目ふく
 あらば。おは親子れは。あられ

よも定りぬれば後トムマド更ハ
 御命に替りて時刻移りて叶さま
 トモ太刀造にて仲光ハ我子れは
 よまよわぬ美女のゆりれおとよ
 仲光が被おまもりつゝ娘幸寿とまよ
 とも僕も自宮お月お替りてはうけ
 きて制さればお主れ命に替りて

弓矢取牙の習ひ也 孝ハカサ
 小争小命の深 幸寿をまよ
 美女も立よる 御命の主君 此方の御
 子中おしく 仲光が 牙の是程
 にかきりて 竹とりせりて やあ
 んと猛心あを 弱を果するまじ
 うね 親あぶに惜まきぬ身を行と只

かし思ふらん中ハカ子情オホクのほろろとある
 情幸考七六人の為り今イハは際キに命イノチに替カ
 已申イハさるは弓矢ユミヤの家イヘの名ナぞ并ナに
 上ウヘのト方カタ知チりニ身ミ小コだダをヲ理ツりノ
 或アルはハおオ主ヌ子コのノあア主ヌ君クニをヲ及ツりテ年トシに
 かけんと心ココロよりヨリやヤあアまマらラゆユんン手テ
 小有コアルのノ致ツ子コぞとト思オモひヒ切キつツ親オヤ心ココロのノ書カキ

打ウチにニ現アるルにニ致ツ子コ致ツ養ユメとトなナりニおオもモるル
 三ミくク定サむム汝ニ申マカ如ニくク果ミぐグ心ココロ平ヘ安ヤスしシ
 けへヘ又マタ美ミ女メ御ミ前マ致ツはハ供トモ申マカ行イ方カタへヘ
 立タ退シ人ヒトにニあアらラわワおオ申マカ上ウヘのノ美ミ女メはハ前マをヲ討ウチ
 ちチりリてテ候ケルけケもモ候ケルけケはハあアまマのノうウらラ
 さサしシそソ実サイ細ゴのノ末ヒ練レン小コ有アリつツらんンをヲ
 しシもモあアらラはハなナらラぬヌ某タ太チ刀ヌキ撥モツ持ツてテ仕ス

そめらひのころろふ。やあいつに仲光
おくまたるうや。是と定終の空言葉子
ての偽仲いふ小仲光。おこと存の如く物ごと
英女あつて子と云わあ。り子より
しそは母の子の幸壽と一子と定む
あつて意ひづく時出。くもはる
おての。英女は前をわ別まて頭あ

みえ緒切言にう世ての。同部仲光
おのいやまはりくへ。換留りやと思ふ
心強くハ云はれだ。思あへん美甘丸と
を秋子のてく手訓。お二んの者お
別々思ふ。よしや玉出おまむ習ひを命
い洲も遠まぬぞと仲光とどけうくおす
うし路あぞう。わ紀。るらや親子の道を

まじりく長く又思ひれ海より法
のそと業新管を給ふ長好ましく

是は敵山恵心の僧教せてぬねも去子細

ゆへに只今多田の満仲の仕可人と急候

先づけ方へ流りゆへにふ業内申の流りて

流りくぞや恵心の僧教の仕下向せて候なり

いふ仲光ねも幸壽が夕へは第ひひと

下申へまじり果がまりたる由は

心はよめるふ申上の恵心の僧教の仕出ふ

ての流り思ふようばや先け方へと申入

畏ての流方へは心は申のね只今へ行

の為の仕出せて候もさへ只今まらる子

母の仕出非も美女はあられゆり申え

為ふとまりて候もさへ只今まらる子

死ね者少くは初お仲光に申付夫ひて
 早^早い中おてのまじ心とまづめて等^{キコ}百れ
 へ^へ美^美女^女は^は前^前を^を舞^舞ひ^ひ申^申を^をどの^{どの}の^の仕^仕度^度か^か
 成^成一^一に^に仲^仲光^光心^心お^お思^思ふ^ふ中^中う^うい^いく^くそ^そ三^三世^世の^の
 主^主君^君と^と手^手に^に懸^懸申^申づ^づこと^{こと}思^思ふ^ふ我^我子^子の^の
 幸^幸寿^寿が^が首^首と^と切^切英^英女^女と^と申^申て^ては^は目^目お^お掛^掛て^ては^は
 され^{され}ば^ば我^我子^子お^お替^替て^て思^思ふ^ふ初^初の^の美^美女^女は^は前^前の^の河^河

不^不審^審免^免一^一お^おり^りも^もを^をと^と英^英女^女と^とい^いく^く一^一満^満
 仲^仲の^の心^心前^前お^おを^をま^まり^りま^まれ^れは^は事^事は^は社^社務^務末^末練^練
 成^成美^美女^女成^成ま^まり^り幸^幸寿^寿と^と殺^殺さ^さる^るは^は決^決た^たお^おり^りや^や
 自^自害^害に^にぬ^ぬば^ばさ^さな^なら^らわ^わく^く決^決さ^さり^りと^とさ^さし^して^て
 幸^幸寿^寿が^が心^心お^お思^思ふ^ふ一^一百^百美^美女^女は^は助^助を^をて^てを^をひ^ひ
 流^流へ^へと^と流^流し^し申^申ま^まれ^れは^は猛^猛心^心も^もよ^よろ^ろく^く
 中^中早^早に^に心^心を^をや^やり^り仲^仲光^光お^おり^りの^の娘^娘

さくら花の酒仙家も入る牙の七
世に孫も侍もたや人も親と子の
一世老突りの二花を娘に親子鶉
鶉の盃れ歳久し地の酒家うら子仲光
目出物おれ一指舞久歳久良の酒
家うら鶉の友おれ氷おう記さづき
下守るぬ思社あき長や定銭子の幸

寿有あは美世前とお舞をせ仲光
手物子離し只今れ夜と風波と思つら
娘かづり思良夜か目良舞の年交
侍の袖の上露も下露をたくれ先きり
浮世の習ひ眼の影をよの夜台の都
に帰る是迄成忠意心の僧越の美女
伴以ゆまられ仲光も遠おわりさづ

